事例No.	2873
公表年度	R5
団体の属性	一般市
団体名	東京都多摩市

事例区分	地域活性化

タグ	・地域運営組織 ・関係人口

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

事例１　東京都多摩市ー合同会社Michilab・多摩市若者会議 その１、その2

出典

地域づくり人材の養成に関する調査研究会（第3回）

事例１　東京都多摩市－合同会社Michilab・多摩市若者会議　その１

団体名	合同会社Michilab（多摩市若者会議）		運営形態	一般財団法人（任意団体）
活動範囲	所在市区町村全域（協働事業は市外でも活動）			
中核を担う職員等	任用形態	非常勤（副業形態）	出身地	同一地域内
	年齢	30代、40代		

【取組み概況】

○多摩市が設置する**「多摩市若者会議」の運営**を受託。また自主事業として、コミュニティカフェ**「Michicafe」を運営**、様々なコミュニティイベントを実施するとともに、市をはじめ**民間企業、UR機構、他地域の若者会議との協働**や（一財）日本青年会議所が開催する「全国まちづくり若者サミット」の運営協力等行う。

○若者会議においては、アイデアを提案・実践しただけでなく、**市と若者の接点**にもなって、市政の様々な部門で、市民委員への就任、ワークショップへの参加者を紹介することが可能となる。

○また、参加する若者の共通認識として『若者会議が存在すること自体が街の魅力である』という認識が生まれ、流動性の高い**若者が多摩市の地域に関わる機会を創出**。※若者の定義は、当初は「39歳以下」としていたが、多世代間交流も見受けられることから、現在は年齢制限を設けてはいない。

○その他、**教育機関との協働**も積極的に行っており、東京都立大学とはフィールドワークや授業実施、恵泉女学園大学とは「タマガク」という地域学講座の中で講演。更に高校では、多摩大学付属高校の夏季休業中の課題学習の支援、都立高校との連携も実施。

【設立の経緯】

○平成29年度より、多摩市では、まち・ひと・しごと創生総合戦略の視点から「若い世代の転出による人口減少」に着目し、**若い世代が「住みたい」と思えるようなまちづくり**を進めていく必要性を認識。

○「ハード」と「ソフト」の両方において、「訪れてみたい」、「住んでみたい」と思えるような魅力を創出するため、ソフト面での取組みとして、若い世代のまちに対するニーズを活かした形で、「多摩市にゆかりのある若者が一同に会する場」＝**「多摩市若者会議」を設置**。

○多摩市**直営の３年間の事業**（ファシリテーターは総務省地域力創造アドバイザー）としてスタート、３年目に活動拠点「未知カフェ-TAMA Revival-」のオープンなどの動きがあり、活動も活発化してきたもの。

事例１　東京都多摩市ー合同会社Michilab・多摩市若者会議　その２

○このタイミングで終了してしまうのは道半ばという思いから、**メンバーの総意で自立自走による法人設立・活動継続**の判断に至る。その後、市側の配慮で市の事業である「多摩市若者会議」の運営を受託することとなり、現在に至る。

【行政との関わり】

○多摩市が設置する**「多摩市若者会議（任意団体）」の運営を受託**し、フィールドワークとワークショップ等を実施。

○その他**地域課題解決に資するプロジェクトの実践**や市からの依頼への若者意見の表明の努力、市への報告、提言に係る活動を多摩市から受託し実施。

○若者会議以前の状況として、市役所が主催する**イベントに若者が訪れることはほとんど無かった**。引き続き、若者が参画しやすく、チャレンジしやすい「場」をつくってもらえるよう、市側からもサポートを行うとともに、今後も多摩市の課題の１つである「**若者の地域への参加、行政への参画」**に向けて、パートナーとして様々に取り組んでもらうことを期待。市でも若者自らが実際に参画して得た経験やネットワークを活かし、若者の参画促進を、ともに研究。

108

【中核を担う者の状況】

○**中学生の頃から地域に対する愛着は持っていた**。高校生の時に、当時まだ出だしだった頃のインターネットで多摩ニュータウンのホームページを作っていた。その取り組みが、月刊誌で多摩ニュータウン特集で取り上げられ、取材を受けた際に、**地域のプレーヤーの人たちと対面、そこから地域活動に入った**というのがきっかけ。※その間に、まちづくりNPOに参加やタウン誌の編集を手伝いをしていた。

○ただ、**就職をしてしばらくの間、多摩を離れていた**が、**結婚後に、多摩に戻る**こととなり、その時に、多摩市の「若者会議のメンバー募集」の情報に触れ、応募した。

○当初想定していたイメージは、会議において**自分のスキルを活かして多摩の魅力発信**をする程度のものと考えていた。しかし市役所と関わり、アドバイザーと接し、活動に入り込むに従い、コミュニティカフェを運営するような会社の立ち上げまでに至ってしまった。**まったく想定外の方向で進んでいる**ことを実感。

○多摩市は、我々が**やりたいことができるように温かく見守りサポート**してくれるので、本当に我々の**やりやすさにつながっている**。※他市だと、行政としてこれは駄目だとか、口出しをする側に回ることが多い、多摩市はそれがない。

○今後は、当初の若者会議メンバーの**世代交代**（7年の間に高齢化したが、再び30代以下による運営体制へ）を図るとともに、MichiLabに関して、**運営事業の拡大**（より地域活性化にダイレクト貢献できる事業に取り組み、40代以上のメンバーの活躍の場をつくる）スタッフの常駐化・有償化、「MichiCafe」の**コミュニティカフェ事業の黒字化**を図る。

○多摩市、多摩ニュータウンの**活性化の最終目標のため**に必要なことは何でも取り組んでいきたい。